まちを動かす！

市民協働のチカラ

まちを動かす「ひと」の活動や協働を進める市の取り組みを紹介します！

第7回

アーティストをつなげ、文化芸術を届ける

アーティストが学校や地域へ出向いて鑑賞や体験の機会を届ける「アウトリーチ活動」の推進に、市民協働事業提案制度を活用し取り組む「一般社団法人PLAY ART（プレイ アート）せんだい」にお話を伺いました

一般社団法人PLAY ARTせんだいはどんな団体ですか？

一般社団法人PLAY ARTせんだい　代表理事　及川多香子さん

「文化芸術の力で、生きる力の循環を生み出す」ことを目的に、文化芸術をあらゆる人々へ持続的に届ける仕組みづくりや環境整備に取り組んでいます。文化環境などのリサーチやネットワーク形成、ワークショップの実践、政策提言を通して、文化芸術の価値が示される活動を社会の中で実践しています。

協働事業ではどんな取り組みをしていますか？

文化芸術のアウトリーチ活動の環境整備、基盤強化に取り組んでいます。東日本大震災以降、仙台ではアウトリーチが普及しましたが、個人のアーティストや任意団体が主体のケースが多く、資金や人材面の課題から継続が難しい状況にあります。仙台独自の経験を継承し、持続可能な仕組みとして発展させるため、ネットワークづくりやコーディネーター研修会の開催、アウトリーチプログラムの実践などを行っています。

▲学校での演劇ワークショップ

市と協働するメリットは？

アウトリーチ活動の現場の声を聞いてもらい、課題を共有したことで、今後、市の文化施策にも生かされていくことが期待できます。

また、個人のアーティストだけで学校などを訪れるのはハードルが高い場合があります。教育指導課との協働により「教育的にも価値がある」と認めていただくことで、アウトリーチ活動がしやすくなることにつながると感じています。

▲協働事業の中間報告会で活動状況を報告する及川さん

市が感じる協働のメリット（文化振興課・教育指導課）

市では、仙台市文化芸術推進基本計画の重点プロジェクトとして、学校や保育所などにアーティストを派遣する取り組みを進めていますが、アーティストと学校などをつなぐコーディネーターが限られ、次世代の担い手を育成する環境の充実が課題となっています。

PLAY ARTせんだいが持つネットワークや経験、専門性を生かし、調査や研修を展開していただくことで、市としてもアウトリーチ活動の現状把握や今後の在り方の検討に生かせると考えています。

問市民協働推進課☎214･1089、FAX211･5986

政宗公の魅力再発見！ 独眼竜入門

戦国武将や仙台藩祖として知られる伊達政宗公ですが、実際どんな人物だったの？残された史料から、その素顔や功績に迫ります！

その六　ファッション

政宗公は戦国武将の中でも装いへのこだわりが強かった人物です。トレードマークともいえる細い三日月形の前立てが付いた兜（かぶと）の他、黒と赤を大胆に組み合わせた山形文様の陣羽織など、独創的なデザインに政宗公の美意識が表れています。

ちなみに、現代においては右目の眼帯も大きな特徴となっていますが、実は政宗公が眼帯をしていたという記録はありません。映画やドラマでの姿のイメージが広がり、定着したものとみられます。

政宗公没後400年となる2036年に新たな大河ドラマを実現するため、署名活動を実施中！

詳しくはこちら